

言語聴覚士による認知症診断への取り組み～高次脳機能検査～

言語聴覚士 八尋 ふみか

当院では、MRI検査や心電図などの脳ドックを受けられた方のオプションとして、言語聴覚士による高次脳機能検査を実施しております。高次脳機能とは、言語機能や記憶力、注意力、判断力など日常生活に必要な能力のことをいいます。MRI検査では、脳卒中の前段階である動脈硬化や、兆候のない脳梗塞を発見したり、脳腫瘍や脳の委縮を早期に発見することが可能です。そのような脳画像診断だけではなく、高次脳機能検査も同時に行うことで、現在の認知機能を総合的に判断し、認知症の早期発見に繋がることも可能です。検査内容は、言語聴覚士からの質問に答えたり、図形を書くなど、簡単な内容となっております。日頃、物忘れなどが気になる方に対して、加齢による問題のないものなのか、それとも認知症の兆候によるものなのかの判断材料の一つとして実施させていただいております。“日常生活の中で物忘れが気になり始めた”、“新しいことを覚えられない”、“周囲から物忘れを指摘される”などといった自覚症状と周りの反応を検査結果と照らし合わせながら、言語聴覚士が総合的に評価します。その評価結果をもとに、医師が診断し、内服治療等の治療方針を立案します。このように医師と連携をとりながら適切な治療にあたります。

